

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103961
法人名	有限会社 やわらぎ
事業所名	グループホームやわらぎ
所在地	愛媛県松山市枝松6丁目7-12
自己評価作成日	平成26年8月25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年9月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

事業所内で定期的に講師を呼んで研修を行い、ご家族にも参加してもらったりしている。誕生日には、ご本人に食べたい物を聞き祝い膳でお祝いをする様にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

1階ユニットは、居間から庭に出られるよう掃出し窓となっており、利用者は庭に作っている畑の野菜に水をやったり、犬の世話をされている。2階ユニットは天窓があり明るく、飼っている鈴虫の声が聞こえていた。テレビ横の棚には、利用者が手作りした人形を飾っておられた。書道の得意な利用者は、大きな用紙に年間行事を書いてくれており、壁に掲示されていた。又、月末には翌月分の暦を書いてくださっている。 毎年6月には、地域の小学校から4年生が来て歌や踊りを発表してくれており、今年は、学校より先に認知症について勉強してから訪問したいとの希望があり、職員が事前に学校に向かい認知症についてのお話をされた。児童に利用者の好きな曲等を伝え、訪問当日、その歌を歌ってくれて、利用者はたいへん喜ばれたようだ。又、授業の成果もあり、児童と利用者のコミュニケーションもスムーズであったようだ。
--

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 有限会社 やわらぎ

(ユニット名) グループホームやわらぎ2階

記入者(管理者)

氏名 品田 典子

評価完了日

26年 8月 25日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 法人理念・ユニット理念を事務所に掲示し、日々確認をしながら仕事に取り組んでいる。又、毎年1月にユニットごとにユニット理念を決め年末に理念が実践出来たか振り返りの場を設ける様にしている。	
			(外部評価) 法人理念をもとに、ユニットごと、又、職員個々に目標を立てておられる。管理者は、日々のケアの中で職員に「利用者がイキイキワクワク生活するにはどうしたらいいか」、「利用者が自己決定することを大事にした介助ができていますか」等、理念と照らし合わせながら言葉をかけておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 日々の挨拶や気軽に立ち寄って頂ける様に、出入りを自由にしている。又、町内会に加入し、祭りや総会などにも参加。近隣の小学校との交流会を受け入れたりしている。	
			(外部評価) 毎年6月には、地域の小学校から4年生が来て歌や踊りを発表してくれており、今年は、学校より「先に認知症について勉強してから訪問したい」との希望があり、職員が事前に学校に出向いて認知症についてのお話をされた。児童に利用者の好きな曲等を伝えたと、訪問当日、その歌を歌ってくれて、利用者はたいへん喜ばれたようだ。又、授業の成果もあり、児童と利用者のコミュニケーションもスムーズであったようだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 夏祭りに参加してもらい交流の場を設けたり、認知症に関する資料を作成し配布したりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2か月に1回開催し、毎回テーマを決めて意見・情報交換を行っている。又、その内容をミーティング等で話し合い現場に活かす様になっている。	
			(外部評価) 会議には、近隣グループホーム職員、町内会長等の参加があり、事業所から近況や行事報告等がされている。又、会議時には、その時々、事業所で困っていること等を採り上げ意見交換がされている。ご家族の参加については、一年毎に担当を決めて案内しているが、仕事の都合等で参加できないことも多い。会議は、事業所の質向上への取り組みの一つでもあり、ケアパートナーでもあるご家族にも積極的に参加いただけるよう、会議案内や内容を工夫されてほしい。参加が難しいご家族についても会議内容をお知らせして、意見や感想等を聞いてみてはどうだろうか。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	(自己評価) 連絡会や研修に随時参加する様になっている。又、推進会の時に相談・アドバイス等の意見交換を行っている。	
			(外部評価) 近所でひとり暮らしする高齢者の方がよく遊びに来られており、最近、物忘れ等があることを地域包括支援センターへ報告されたこともある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束にあたる具体的内容を事務所に掲示し、スタッフも理解している。又、ケアプランで話し合ったりしている。	
			(外部評価) 利用者の退院時に、病院から安全のためベッド柵を付けるよう助言があったが、事業所ではご家族と話し合っ、柵は付けず、ケアの工夫で対応されている。職員の見守りを頻回に行い、又、布団に鈴を付け、起き上がり時に職員が分かるようにされていた。玄関は、施錠せず、自由に出入りできるようにしており、調査訪問時、玄関前の椅子に座ってタバコを吸っている方がおられた。「帰りたい」と出かけて行く方もあるが、ご本人の納得いくまで職員が付き添われている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 関連資料を事務所に掲示し、スタッフは日々確認しながら仕事に取り組んでいる。又、ケアプラン会で話し合う様にもしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 以前参加した内容をファイリングし、活用出来る様にしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 事前に見学に来てもらい、ご本人・ご家族と面談を行いその際に十分な説明をし納得した上で入居を決めて頂く様にしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者さんと話す場を設けたり・ご家族にはアンケートをとったりしている。苦情があった場合は、スタッフ会で話し合いケアに活かす様にしている。 (外部評価) 事業所独自で3ヶ月ごとに発行している「やわらぎ便り」では、写真を多く載せて、ご家族に行事や日常の様子を報告されている。便りを見たご家族からは、「うちのばあちゃんの写真が出とったね」「〇〇へ連れて行ってくれたんやね」等、感想があるようだ。又、月1回、個別に手紙にて体調や暮らしぶり等を報告されている。ご家族から「職員に名札を付けてほしい」との意見があり検討したこともあった。	職員は、利用者の入れ替わりやスタッフの異動があったことを機に、ご家族にアンケートを取り、サービス向上のきっかけにしたいと話しておられた。事業所を実際に利用する側にあるご家族の声は、サービスの質向上への取り組みの起点でもある。多くの声を集められるような取り組みが期待される。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			月に1回のリーダー会とスタッフ会を実施し、意見・情報交換を行っている。又、	
			(外部評価)	
			月1回のスタッフ会時に、職員から利用者への言葉がけについて気になる点の意見が出され、皆で「第三者やご家族の立場として聞いたらどのように感じるか」等の視点から話し合われた。職員個々に目標を立てて取り組んでおり、管理者は「個々の頑張りや課題点が明確になり、焦点を当て指導できる」と話しておられた。管理者は、事務所に外部研修の案内を掲示したり、少なくとも年1回は外部研修に参加するよう促しておられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			努力や実績を把握・考慮した上で昇格・昇給を行っている。又、年に2回自己評価を行い、各自の介護の仕事に対する向上を図る様にしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			事業所内で年に数回計画し実施している。(外部の方に講師をお願いして)	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			他のホームの推進会や夏祭りに参加したりして。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			事前にカンファレンスを行い、その際に出来るだけ希望・要望をお聞きし対応する様にしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前にカンファレンスを行い、その際に出来るだけ希望・要望をお聞きし対応する様にしている。又、アンケート形式で希望・要望などをお聞きしたりもしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) カンファレンス時に、必要支援を把握し入居前にスタッフ全員で話し合い全員が把握した上で出来る限りの対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 家事全般・家庭菜園などを一緒に行い、その都度色々教えて頂きながら一緒に体感・体験する様にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 心身の状況・日々の出来事をその都度説明・報告し意見交換・情報の共有をしている。又、月に1回手紙を郵送したり、行事に参加したりしてもらっている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) いつでも来訪して頂ける様に、出入りを自由にしてている。現在も来訪者あり。また、お墓参りに出掛けたり・外泊等もあり。 (外部評価) 利用者の方から、「生まれ育った街へ行ってみたい」との希望があり、ふるさと訪問を支援したことがある。県外に住む娘さんに絵葉書を送ったり、又、日用品の購入をお願いするため、利用者をご家族へ電話するサポートもされている。自宅で1泊して、美容室へ行ったり、ご家族と食事を楽しむ方には、「〇日にご家族が迎えに来られますよ」等、ご本人が心待ちにできるような言葉かけに心がけておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 各利用者の性格を把握した上で、レクなどを有効に活用したり、スタッフが間に入りコミュニケーションが取りやすくなる様にしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) いつでも来訪して頂ける様に、出入りを自由にしてている。	
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 各自に担当者を配置し、希望等を聞ける様な環境を確保している。又、ご本人やご家族に状態が変わった都度希望等を聞き直して個人ファイルにファイリングしている。困難な方には、ジャスチャー等でコミュニケーションを図る様に努めている。	
			(外部評価) 入居時やその後に知り得た利用者の情報は、センター方式をアレンジした独自の様式にまとめておられる。農業に従事していた利用者には、職員と庭の草むしりを一緒にする機会を作っておられる。利用者は普段車いすを使用しているが、草むしりする時には職員が低い椅子や手鋤を用意し、ご本人は丁寧に作業をしてくださるようだ。又、犬が好きな利用者の方が、事業所の飼犬の世話を積極的に行ってくれている。調査訪問時には、餌やりしたり、毛を梳いてやったりしてかわいがっておられた。裁縫の得意な方は、法人のバザーに出す雑巾を縫ってくださっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前にアセスメントシートで本人や家族から聞き取りを行い情報収集を行ったり、日々の会話の中で聞いたことを記録に残している。得意分野を活かしたケアプランを作成している。(習字・生け花・裁縫など)	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日のバイタル測定、日々の関わりの中で心身の様子を観察しながら接し、介護記録に細かく記入する様にし協力病院の医師に相談等を行う様な連携をとっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 担当者がプランを計画・作成し、リーダー・ケアマネージャーでモニタリングを行いケアプラン会で全員で話し合い相互の意見交換などを行っている。家族には、プランの月評価を報告し意見交換を行っている。</p> <p>(外部評価) 利用者毎に担当職員を配置しており、月1回のカンファレンス時には利用者一人ひとりのケアについて、職員全員で話し合っておられる。毎月モニタリングを行い、3ヶ月毎に介護計画を見直しておられる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別にケアプランチェック表を作成したり、担当者以外の職員もプランを実施出来る様に事前に個別記録にもプランを記入し皆が把握出来る状態にしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 系列事業所と情報交換・連携を図り必要に応じて活用している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 必要に応じて、要請・協力をお願いしたりしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 事前に希望する病院を聞いている。内科・歯科と医療連携を図り気軽に相談でき治療が受けられる体制をとっている。内科に関しては、24時間対応の連携体制も取れている。歯科に関しては、希望時に往診に来てくれる体制をとっている。	
			(外部評価) 職員は、利用者の体調に関して不安なことはメモしておき、月2回の主治医の往診時に確認して対応されている。歯科は希望があれば、往診してもらえよう支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護職員は配置していない為、協力病院と連携体制をとっている必要に応じて看護師が駆けつけ対応してくれる。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 定期的に職員が交代で面会に行き、その際に医師・看護師と意見・情報交換を行い必要に応じてカンファレンスを行う様になっている。又、協力病院とその都度話し合い早期退院を心がけている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に希望を事前に聞いておき、終末期に入った時に再度希望を聞き直す様になっている。(書面に残している)協力病院にも意向を伝えカンファレンス等を行う体制をとっている。	
			(外部評価) 看取り支援時には、医師が毎日のように往診してくれて、ご家族も頻回に会いに来られ支援された。他利用者は、「大丈夫？」と居室を訪ねてくれる方もあったようだ。現在、終末期のあり方については、入居時にご家族の意思を確認するが、その後は、看取りの状況になってきたら、ご家族の意向を確認するようになっている。最期まで利用者主体の支援を実践できるよう終末期のあり方については、利用者ご本人の希望を知るような取り組みもすすめていかれてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 実技的な訓練は、消防訓練の時などにしか行えていない。 (消防署での救命救急の研修は、全職員参加済み) 対応マニュアルを作成し職員にも周知している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回の計画・実施を行っており、いざという時は近隣の方が協力してくれる体制が取れている。又、近隣のグループホームと災害時の緊急協力の連携体制が取れている。	
			(外部評価) 昨年10月の避難訓練は、消防署立ち合いのもと、昼・夜間の火災を想定し行われた。消防署の方からは、「避難時の職員の声が小さい」「声かけが少ない」とアドバイスがあり、3月の訓練時には、声かけをしっかりと行うよう改善された。訓練後、職員から、「さらに職員それぞれが自分の動きを具体的に伝えた方が他者にわかりやすいのではないか」と意見があった。火災・地震・突風・水害の災害別のマニュアルを居間に掲示しており、事務所内の入口近くには、薬ノートやラジオ・懐中電灯が入った非常持ち出し袋を常備されている。新たに、タオルと軍手を利用して作った職員手作りの防災頭巾も用意されている。いざという時の近所の応援は、今後の取り組み課題にされていた。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人に関する申し送りは、イニシャルで行いトイレ誘導の声かけは他者に分からない様に声かけする様子を気をつけている。又、個人の部屋も基本は閉める様にしている。	
			(外部評価) 居室は「個人の部屋である」ことを意識して、職員は、利用者へ無断で入ったり、扉を開けたままにしないよう気を付けておられる。女性利用者が多いため、男性職員は排泄や着替えにかかわる際には、特に気を付けており、時には女性職員に交代して対応されている。利用者のお誕生日には、ご本人のお好きなもので、オリジナルケーキを作りお祝いをされている。利用者によっては、ご家族から「おはぎが好き」と聞き、おはぎをケーキに見立てて皆でお祝いしたこともあった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 外出・買物などは、声かけを行うが本人の意思に任せている。入浴・食事については、本人の希望する時間に合やす様にしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 食事・入浴・起床・就寝については、声かけは行いが本人のペースで行う様にしている。レク等も日や週を決めていない。時には、職員ペースになっているのも現状。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 更衣時には、本人の好きな洋服を選んでもらっている。又、本人の希望する散髪・美容室に行ったりもしている。洋服購入時は、本人の希望する物を選んで購入してもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 調理に関しては、能力に応じて参加してもらっている。又、誕生日には事前に好きな物・食べたい物を聞いておきお弁当箱につめてお出しする様にしている。行事の際は、祝い膳などを作り提供している。	
			(外部評価) 現在、一時的ではあるが、業者から献立に沿って食材が届くサービスが利用されている。利用者は、玉ねぎの皮むきやもやしの根とり、又、簡単な盛り付け等をされている。調査訪問時には、下膳や食器拭き等する利用者の様子が見られた。朝食時間は、その方の起床に合わせおり、必ずフルーツを付けている。昼食時、食事のすすまない方に職員は、「おにぎりにしてきましょうか」とお聞きして対応され、利用者はふりかけ入りのおにぎりを美味しく食べておられた。食事中、利用者同士で「ご飯たべよるかな?」「私のぶどう食べん?」「ありがとう」とやりとりしながら食事されていた。退院後、食が細くなった利用者には、おかゆやお好きなお寿司を準備して食事量が増えるよう、個別に支援されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 各自の状態を把握した上で、大きさ・硬さ飲み物の種類などを変えている。又、食事量については個別に記録する様にしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の歯磨き・うがいを声かけ・誘導する様にしている。就寝時には、義歯を預かる様にしている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>排泄チェック表を作成し、1人1人の排泄パターン・サインを把握しトイレ声かけ・誘導を行う様になっている。紙パンツ・パッドを使用している方には、使用頻度を減らす様に工夫している。(日中、布パンツに変更したり)重度の方で本人の希望する場合は、2人介助でトイレ誘導を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>紙パンツやパッドを使用している方も、日中はトイレで排泄できるよう支援されている。昼食後、居間でくつろぐ利用者に、職員が耳元で声をかけトイレ誘導されていた。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>基本的には、自然排便を心がけている。牛乳やヨーグルト・すりリンゴなどを摂取してもらったりし、下剤の使用回数を減らす様になっている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入浴日は決めておらず、定期的な声かけ・誘導を行っている。自立している方については、本人の希望する時間帯に入浴してもらっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事業所では、週2回を目安に入浴支援されている。時間帯は特に決めておらず、一番風呂の好きな方、ぬる目のお湯を好む方、入浴剤が好きな方・苦手な方等、個々の好みを踏まえて、入浴の順番等、工夫して支援されている。上半身の皮膚の乾燥がひどい方には、医師に相談し、塗り薬で対応したが、なかなか完治せず、ご家族、医師と話し合い、石鹸を変更したり、入浴後に市販の保湿剤を使用する等して改善に向け取り組まれている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>基本的には、起床・就寝時間は決めておらず本人の希望に合っている。昼寝等も、本人に合っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個別に処方箋をファイリングし、症状の変化時には医師に連絡し指示をもらい対応している。又、服薬変更に関しては別に連絡ノートを作り記録し申し送り全職員が把握する様になっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴を把握した上で、個々の得意分野に応じて役割作りをし実施・支援している。(庭の手入れ・野菜作り・犬の世話・家事参加など)	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 年度初めに年間行事を計画し、担当者を決めて実施している。その中に、買物ツアーや外食ツアーを取り入れたりしている。その際は、ご家族にも参加のお願いをしている。	管理者は、全員での外出や、又、個別の外出にも対応していきたいと考えておられる。利用者やご家族の外出支援の希望等をお聞きしながら、利用者の暮らしを地域に拡げていけるような支援の工夫を重ねていかれてほしい。
			(外部評価) 基本的に月1回、お花見やいちご狩り、外食等の外出行事を計画して外出する機会を作っておられる。その他、買い物等、個別の外出時は、タクシーや公共交通機関を使うこととなったため、移動費の負担が生じ、外出を控える利用者もおられるようだ。外出の機会が少ない方には、亀の水槽の水替え等で職員が庭に出る時にお誘いして、外気にふれる機会を作れるよう支援されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 管理出来る方は、お小遣いを所持してもらい買物時には自分で支払いをしてもらっている。大半は、ホームで管理している方が多い。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 基本的には、自由に電話などが出来る様にしている。手紙なども自由にしてもらい、投かんのみ代行。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>共有スペースには、スタッフ手作りの切り絵を掲示したりしている。玄関先には、ベンチなどを置き、利用者さんが休憩出来る様になっている。又、玄関席には季節の花を利用者さんに生けたりしてもらっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>1階ユニットは、居間から庭に出られるよう掃出し窓となっており、利用者は庭に作っている畑の野菜に水をやったり、犬の世話をされている。2階ユニットは天窓があり明るく、飼っている鈴虫の声が聞こえていた。テレビ横の棚には、利用者が手作りした人形を飾っておられた。書道の得意な利用者は、大きな用紙に年間行事を書いてくれており、壁に掲示されていた。又、月末には翌月分の暦を書いてくださっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ホールにソファなどは、定期的に配置を変えたりして自由に座ってもらっている。食卓テーブルは、大体座る位置が決まっているのでお一人で過ごされたり、新聞を読まれたりしている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居時に馴染みの物や使い慣れた物を持参してもらっている。(ダンス・仏壇・ご自分で書いた習字など)</p> <p>(外部評価)</p> <p>各居室の入口には、利用者ご本人が名前を書いた木のプレートを掛けている。居室には、お孫さんの写真やご家族から届いた写真付年賀状、職員からの誕生日のお祝いメッセージの色紙等を貼っておられた。昼食後には自室でテレビを見てくつろいでいる方が見られた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>自室の入り口には、各自表札をにかけている(自分で記入された方もいる)又、廊下の手すりの高さを変えたり、トイレ・浴室の手すりを増やしたりし対応している。</p>	